



日本私立歯科大学協会広報

第86号
令和5年9月

目次

〈巻頭言〉	
時代に取り残されないためには?	
玉置幸道	2
〈大学のニュース〉	
○北海道医療大学歯学部	
・SCP×後援会コラボ 試験勉強応援企画	
「合格祈願! 応援メシ」を実施	5
・ドイツ・チューリンゲン病院と本学歯学部で	
学術交流協定を締結しました	5
・歯学部海外臨床研修・海外臨床実習を	
実施しました	5
・マラ工科大学(マレーシア)との	
歯学部間交流協定更新式を実施しました	6
○岩手医科大学歯学部	
・最終講義が行われました	6
・卒業式が挙行されました	6
・岩手医科大学入学式が挙行されました	6
・法科学講座法歯学・災害口腔医学分野の	
熊谷准教授が「歯牙鑑定」照合オンラインアプリ	
を開発しました	7
○奥羽大学歯学部	
・附属病院 自衛消防訓練	7
・献血者合同慰靈式・実験動物供養	7
・登院式	8
・歯科医師臨床研修開始式	8
○明海大学歯学部	
・新学長に中鳴裕を選任しました	8
・シェナ大学(イタリア)と学術交流協定を	
再締結しました	9
・アメリカ矯正歯科学会の学会誌で	
2022年最優秀論文賞を受賞	9
・申基皓副学長・歯学部長 日本歯周病学会賞を	
受賞	9
○東京歯科大学	
・2023年度フレッシュマンセミナー開催	10
・2022年度 口腔科学研究センター	
ワークショップ開催	11
○昭和大学歯学部	
・昭和大学病院入院棟17階 特別病棟開設	11
・富士吉田キャンパス「赤松寮」竣工	12
○日本大学歯学部	
・歯学部のカリキュラムについて	12
○日本大学松戸歯学部	
・新学部長に福本雅彦教授が就任	13
・新病院長に平山聰司教授が就任	13
○日本歯科大学生命歯学部	
・高橋英登 日歯会長に当選	14
・羽村章教授が受賞 日本歯科医学会会長賞	14
・本学創立117周年式典	14
・本学第2回卒のハムソクテ先生	
韓国の歯科医籍の第1号	15
○日本歯科大学新潟生命歯学部	
・中原賢新潟生命歯学部長 副学長を併任	15
○神奈川歯科大学	
・歯学部ベストティーチャー賞の導入について	16
・横浜クリニックだより	16
・防災訓練	17
○鶴見大学歯学部	
・岡部早苗歯科衛生士(附属病院)、	
千葉敏江技術員(解剖学講座)が	
「令和4年度医学教育等関係業務功労者」の表彰	
	17
・ナウマンゾウ化石発掘!	
歯学部歯科理工学講座三島弘幸研究員が	
第23次野尻湖発掘に参加しました	18
・名誉教授の称号を授与	18
・新入生本山参禅会	18
○松本歯科大学	
・歯科矯正学講座・薄井陽平非常勤講師が開発	
毛先を約15度にカットし磨きやすさを追求した	
新しい歯ブラシ「O-SENSE」	19
・姉妹校・河北医科大学代表団が来学	19
・チームプレーに参加者一丸	
学年を超える笑顔あふれる第34回体育祭	20
○朝日大学歯学部	
・White Coat Ceremony 2023	21
・歯学部交流校シェナ大学と学術交流協定を更新!	
	21
・テキサス大学、カリフォルニア大学との交流	22
・歯学部課外セミナーを開催!	22
○愛知学院大学歯学部	
・令和4年度 第57回歯学部学位記授与式を	
挙行いたしました	23
・田中貴信名誉教授が春の叙勲において	
瑞宝中綬章を受章	23
・歯学・薬学1年生合同IPE	
(IPE: Interprofessional Education 多職種連携教育)	
が開催されました	23
○大阪歯科大学	
・三条市立大学と〈歯科医療製薬品の研究開発に	
係る包括連携協定〉に調印しました	24
・大阪マラソンのランナーを守る医療活動に	
歯学部3年生が参加しました	24
・SCRP日本大会“準優勝”的表彰式を	
行いました	25
○福岡歯科大学	
・口腔医学研究センターシンポジウムを開催	26
・口腔医療センターが移転	26
・医科歯科総合病院に呼吸器・循環器内科を開設	
	26
・学生研究支援プログラム	
リサーチ・スクューデントが決定	27
〈事業概要〉	
○令和4年度協会決算	28
○令和5年度協会事業計画	28
○令和5年度協会収支予算	30
○総会	31
○理事会	35
○部会・委員会	39
○事務局長会議	39
〈日本私立歯科大学協会関係の諸会議〉	
○第30回日本私立歯科大学・歯学部附属病院	
歯科衛生士協議会	40
○第27回日本私立歯科大学・歯学部附属病院	
歯科技工士協議会	40
〈叙勲〉	41
〈訃報〉	41
〈人事異動消息〉	41
〈協会役員・部会・委員会名簿〉	55
〈賛助会員企業紹介〉	59
〈一般社団法人日本私立歯科大学協会加盟名簿〉	60
〈編集後記〉	60

巻頭言

時代に取り残されないためには？



朝日大学歯学部長
玉置幸道

はじめに

先日、家族に促されて約3年間使用していた携帯電話の機種を変更した。とりたてて困っていたわけではないのだが、振り返ると朝方にしっかりと充電して仕事に出ても、帰る頃には10%を切ることが多くなり、経年的な機能低下を感じていたのも事実である。加えて、新品は何といっても新鮮な気持ちに誘ってくれ、高い処理能力も手伝い気持ちをリフレッシュしてくれるだろう、そんな淡い期待もあった。

ところが、機種を変更しても使い勝手は変わらないとばかり思っていたのだが、いろいろな部分で自ら再度設定をしなくてはならないことに気づいた。旧いスマートフォン（以下、スマホ）で紐づけていたもののいくつかは再度の設定を余儀なくされ、さらには取得したアプリ 자체は新機種に移るが、それ以前に入れ込んだ情報はID・パスワードでログインをして移す必要があるらしい。スマホの利便性は移動しながらの電話とメール等の通信機が主で、それ以上のことはたいして望んでいないはずだったのだが、周囲の勧めでアプリケーションをダウンロードしてWeb上での買い物あるいは公共料

金の引き落とし、通勤定期代わりの電車乗降、切符購入・予約、各種振込みなど、誰かが傍らにいてくれると便利なのだが、なにかアクシデントが生じて自らで対応するとなると、これが思うようにいかない。

図は電信機器の変遷（総務省調べ）である。2010年にはわずか10%にも満たなかったスマホが通信機器とパソコン機能を兼備したという卓越した装備を前面に押し出して、いまやほとんどの人が持ち歩くものへと変貌を遂げている。付随してパソコン、固定電話（この2つはほぼ同じ挙動）、ファックスは右肩下がりとなり、スマホは前述したアプリ搭載での多機能で、いまや生活の必需品ともいえるのではないか。

幼少のころから携帯機能に慣れ親しんでいる

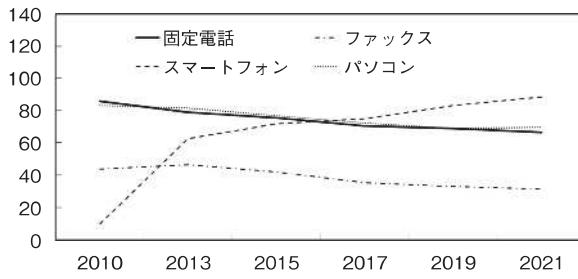


図 電信機器の普及度変遷(総務省調べ)

世代ではいとも簡単に時流に乗って順応していくのに、齢を重ねた世代ではまったくついていけない。もしかしたら太刀打ちできないことが分かっているので、敢えて目を背けているのかもしれない。そうだとしたら、なんとももったいない話である。

1. 歯科界の現状

さて話をいまの歯科界に置き換えて考えてみたい。歯科医師はコ・デンタルである歯科衛生士、歯科技工士と協調して歯科治療に臨むのが一般的である。歯科医師がチェアーサイド（院内）で齶部を取り除く際には衛生士の介助を要し、また必要となる補綴修復物はラボサイド（技工室内）で技工士により製作してもらい、患者の審美・咀嚼などの機能を回復させる。コミュニケーションを取りながらの見慣れた光景であったのだが、ここにデジタルの技術が入り込んできたのだ。

従来は歯科材料を介して患者の口腔内情報を取得し、それをもとに補綴修復物を製作していた。加工の王道といえば、練って、混ぜて固める、溶融して形状を付与する、古来より馴染みのある粉体を高温焼成で成形するといった、何かしら手を加えて成形するのが常道であった。この工程をデジタル化するのである。光学カメラを利用して口腔内を撮影し、その情報をコンピューターに取り込ませることで精密な三次元の口腔モデルをモニターに構築することができる。さらにはそれを基にPCからコマンドを送り、素材から削り出して補綴物を製作する。

手作業では時間をかけて丁寧に製作をすれば一定のレベルを担保した補綴修復物は提供できるだろうが、その場合においても作業工程はそれなりの時間を要するものである。しかも個別生産のため一度に大量生産は望むべくもない。さらには誰でもができるものではなく、ある種の熟練が生み出す匠の技が必要することもある。まさに経験がモノをいうパートでもあるのだ。

それに比べると設計も製作工程もコンピュー

ターによる自動化であり、術者は直接に手を下すことがないところは大きなアドバンテージである。なにをさておき、術者の経験値に左右されず、仮に紛失したとしてもデータが残っていれば同じ製作物をいくらでも生み出すことができる。もちろん、匠の技によって製作されたものには及ばなくとも合格点がもらえればいうことはない。最終的な仕上げこそ手作業が入り込んでいるが、これとてそう遠くなく満点の製造物ができるようになるのではないか。そんな思いに駆られるほど、技術の進歩は令和の時代になり加速化している。

2. IT (Information Technology) 化の進歩と保険の動向

表はCAD/CAM (Computer Aided Design & Computer Aided Manufacturing) 用コンポジットレジンによる補綴修復物の保険収載の変遷である。2014年に小白歯冠として登場して以来、僅か10年足らずで多くの補綴修復を行えるようになった。以前なら、臼歯部は咀嚼の主体をなすため「臼歯部歯冠修復は金属で」というのが暗黙の了解であったのだが、CAD/CAMという新しい成形技術が登用されたことにより、状況は一変してしまった。もちろん、CAD/CAM用コンポジットレジン冠の保険収載の大前提としては耐久性を高めるべく、しかも良質な材料の開発が必要であり、そこには歯科器械・材料メーカーによる企業努力があったことは言うまでもないが、それにしても凄まじいものである。

表 コンポジットレジン CAD/CAM 冠の保険収載

2014年4月	第一小白歯、第二小白歯
2016年4月	第一大臼歯、第二大臼歯 (ただし金属アレルギーのケースのみ)
2017年12月	過度な咬合負荷がかからない下顎第一大臼歯
2020年4月	過度な咬合負荷がかからない上顎第一大臼歯
2020年9月	前歯
2022年4月	インレー

(田上直美、保険診療における CAD/CAM 冠の診療指針 2020 より作成)

3. AI (Artificial Interagency) の出現

CAD/CAMへの対応にも苦慮しないといけない中、時代は早くも次に向かって進んでいる。AIの活用である。

唐突だが1960年代に流行った代表的なTVアニメに手塚治虫氏の「鉄腕アトム」と横山光輝氏の「鉄人28号」があった。当時の我が国は高度成長期であったが、まだTVは高級家電製品の位置づけで普及率はそれほど高くなく、画面もモノクロであった。ともに近未来を描いたロボットが主役の作品であり、共通点も多い。

鉄腕アトムは“感情を持つロボット”として描かれ、善悪を見抜ける能力を兼ね備えている正義の味方という設定に対し、鉄人28号では劇中に人工知能を有するロボットが敵役として登場していた。自らでロボットを解体して仕組みを学んでロボットを量産し、人間を駆逐する目的を持つ“悪いロボット”として描かれていた。半世紀以上も前の時代に、現代が透けて見えたかのような両巨匠の先見の明にはもはや言葉がない。

これが現実味を帯びてきたのがビッグデータを基に学習を積んでいくタイプといえよう。囲碁や将棋の世界にAIが介入してきたのは今から15年ほど前の話で、当時は数十手先を読むプロ棋士には歯が立たないと思われていた。ところが先人たちが残した棋譜を膨大なビッグデータとして搭載し、学習を重ねていく中であらゆる場面に立ち向かえる能力を獲得した結果、「AIに教わる」時代になってしまった感すらある。医療の世界でも症状をいくつか打ち込んだり選択したりするだけで診断名が絞り込まれるという話を聞いたことがある。まさに人の手を介さず、というところだろうか。

ビッグデータから学ぶディープラーニングからさらなる進化を遂げ、いまや生成AIと呼ばれるステージへと進化した。その代表格が「チャットGPT」である。センセーショナルな報道で取りざたされて久しいが、その進化・発展には驚くばかりである。

歯科医師過剰時代もそろそろ終焉も迎えていると思うのだが、国家試験の合格率は一向に改善されていない。しかし、一方では歯科医師を確保しないと、という考えも出てきつつある。適正なところは読めないのだが、こちらも過去の国家試験問題をすべて読み込ませて正答率や難易度を分析して試験問題を作成すれば、合格率をAIが自在に操る時代が来るかもしれない。

おわりに

文部科学省のホームページでもICT(Information and Communication Technology:情報通信技術)の活用を推進している。とりわけ学部学生から共用試験、国家試験を通して歯科医師資格を取得した後も臨床研修、さらには卒後研修・専門医研修に至るまで、まさに切れ目のない歯学教育の在り方、シームレスな学修を重ねていくことの大しさについて詳細に記載されている。医療人としての自身の評価を落とさぬためには時代の変化を敏感に感じ取り、そして対応していく柔軟な姿勢がいかなる場面でも求められていることを心に留めておきたい。

昭和世代もデジタル化推進に対して嘆くばかりでなく、時代の進化に尻込みをせずに時には若者にも教えを請いながらでも、時流にしっかりと乗って歯科医療の提供に参画していきたいものである。

〈筆者の略歴〉

1983年 3月	昭和大学歯学部歯学科卒業
1987年 3月	昭和大学大学院歯学研究科（歯科理工学専攻）修了
1987年 4月	昭和大学歯学部助手
1990年 7月	Northwestern大学（米国）Visiting Assistant Professor Division of Biological Materials（1年間：1991年6月30日まで）
1992年 1月	昭和大学歯学部講師
1996年 4月	昭和大学歯学部助教授
2006年 4月	昭和大学歯学部准教授
2013年 4月	朝日大学歯学部教授
2016年 4月	朝日大学歯学部教務部長
2023年 4月	朝日大学歯学部歯学部長（現在に至る）

大学のニュース

■ 北海道医療大学歯学部 ■

SCP×後援会コラボ 試験勉強応援企画 「合格祈願！応援メシ」を実施

2023年1月23日～3月3日に、コロナ禍において苦境に立つ医療系学生の支援のためにと寄付いただいた白米約300kgをピラフや炒飯等に加工して、国家試験や定期試験等の勉強に励む学生に無料で提供しました。この企画は学生の代表として様々な取り組みを行っている学生キャンパス副学長（通称：SCP）が企画し、北海道医療大学後援会の協賛および学内食堂業者の協力により実施されました。延べ662名の学生に振舞われ、受け取った学生は「日々物価高騰を感じているので無料でもらえるのはうれしい」「小腹を満たせて勉強がはかどる」と好評の様子でした。



ドイツ・チューリンゲン病院と 本学歯学部で学術交流協定を 締結しました

本学歯学部永易裕樹教授が2023年2月27日～3月3日に、ドイツのチューリンゲン病院およびSaalepraxisを訪問し、MOU締結式に参加致しました。

また、同期間に永易教授引率のもと、チューリンゲン病院にて本学歯学部学生の短期研修も行われ、4名の学生が参加致しました。

MOU締結式ではチューリンゲン病院のCEOであるDr.Krönertより組織概要のプレゼン、永易教授から本学概要のプレゼン後、協定書に署名が行われました。

上記2施設はSaalfeld市内にあり、チューリンゲン病院はさらに近隣市内（Rudolstadt, Pößneck）に2施設の病院を有する組織であり、学生の研修期間中、チューリンゲン病院有する2施設でも研修が行われました。

締結式終了後には、Saalfeldの市長が訪問され、本学そしてチューリンゲン病院が医療人育成のための教育機関としての発展、さらにSaalfeldへの本学訪問が今後の日独友好発展につながることを望むとのお言葉をいただきました。

北海道医療大学ホームページトピックス
(令和5年3月掲載)

歯学部海外臨床研修・海外臨床実習 を実施しました

2023年2・3月に歯学部にて海外臨床研修・海外臨床実習として、海外提携校に14名の学部生を派遣し、各大学での短期研修に参加致しました。

歯学部海外臨床研修・海外臨床実習は、2014年度より毎年実施しておりましたが、2019年度（2020年2・3月派遣）からは新型コロナウイルス感染症の影響で中断しており、今回、3年ぶりの実施となりました。

本研修は、国際的な視野をもつ歯科医師の養成を目的とし、大学間及び学部間提携を結ぶ海外協定校・施設にて、医療施設・研究施設の見学や診療見学・介助、ケースディスカッション、ゼミ・授業への参加、現地学生との交流等が行なわれました。

【研修先】

タフツ大学（アメリカ）、ストラスブル大学（フランス）、チューリンゲン病院（ドイツ）、チュラロンコン大学・マヒドン大学（タイ）、イエテボリ大学（スウェーデン）、キョンヒ大学（韓国）

北海道医療大学ホームページトピックス
(令和5年3月掲載)

マラ工科大学(マレーシア)との 歯学部間交流協定更新式を 実施しました

2023年4月25日、マラ工科大学の前歯学部長である Mohammed Ibrahim Abu Hassan 教授が来学され、歯学部間学術交流協定更新式に出席されました。

更新式では、はじめに両校のPVにて大学紹介を行い、その後、Ibrahim 教授、古市保志歯学部長、斎藤隆史教授、安彦善裕国際交流推進センター長がそれぞれ挨拶とこれまでの交流等について述べられ、協定書の署名が行われました。

更新式後には、大学施設及び歯科クリニックを視察、その後、あいの里キャンパスに移動し、舞田健夫教授の案内にて大学病院を見学されました。

今後は、5月、6月、9月の3回に分けて、総勢21名のマラ工科大学の学生が本学歯学部短期研修参加を予定しており、益々の交流が期待されます。

北海道医療大学ホームページピックス
(令和5年5月掲載)

■ 岩手医科大学歯学部 ■

最終講義が行われました

3月6日(月)、大堀記念講堂において、3月31日付をもって定年退職される教授の最終講義が行われました。

聴講者は、各教授によるスライドや在職中のエピソードなどを交えた熱心な講義に耳を傾け、名残を惜しみました。講義終了後には、職員や学生から各教授に花束が贈呈され、惜しみない拍手が送られました。



左から：三浦教授、佐塙教授、小澤教授、菅井教授

岩手医科大学報 vol.546 (令和5年3月発行)

卒業式が挙行されました

3月10日(金)、岩手県民会館大ホールにおいて令和4年度岩手医科大学卒業式が挙行されました。新型コロナ

ウイルス感染症の終息が見通せないことから、出席者は卒業生、修了生及び教職員のみで行いました。参加が叶わなかった保護者の為、ライブ配信されました。

令和4年度岩手医科大学医療専門学校の卒業式は、3月7日(火)に上ノ橋校舎で挙行されました。保護者の出席をご遠慮いただく等、最小限の人数で執り行われました。

昨年度同様、規模縮小の開催となりましたが、卒業生は母校の思い出と新天地への期待を胸に、医療人として決意を新たにしたようでした。



岩手県民会館大ホールで挙行した卒業式



岩手医科大学医療専門学校 卒業生と関係教員・職員

岩手医科大学報 vol.546 (令和5年3月発行)

岩手医科大学入学式が挙行されました

4月12日(水)、トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)大ホールにおいて、令和5年度岩手医科大学入学式が挙行されました。新型コロナウイルス感染症対策として、入学生及び教員のみの参加とし、参加が叶わなかった保護者に向けて、ライブ配信が行われました。

今年度は大学院医学研究科博士課程21名・修士課程8名、歯学研究科博士課程5名、医学部130名・3年次編入学3名、歯学部30名・2年次編入学6名、薬学部35名、看護学部92名の入学生を迎えました。



トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)大ホールで
挙行した入学式



入学生宣誓

岩手医科大学報 vol.547 (令和5年5月発行)

法科学講座法歯学・ 災害口腔医学分野の熊谷准教授が 「歯牙鑑定」照合オンラインアプリ を開発しました

3月12日(日)、岩手県公会堂において、熊谷准教授が開発した「歯牙鑑定」照合オンラインアプリの研修会が行われました。

このアプリは、東日本大震災で遺体の身元確認が難航した教訓を踏まえ、歯の治療痕等から身元を特定するもので、タブレット端末等で簡単に入力でき、複数人による同時検査や遠隔地での作業も可能となっています。犬歯（識別番号3番）と第1大臼歯（同6番）が身元特定



作業風景(左が遺体検査者、右が記録者)

に繋がりやすいことから岩手県歯科医師会によって「36(サブロク)検索」と名付けられています。研修会では全国から参加した警察官や歯科医師19名に熊谷准教授がアプリの使い方を指導しました。

今後、岩手県警と連携して実用化を目指していきます。

岩手医科大学報 vol.547 (令和5年5月発行)

奥羽大学歯学部

附属病院 自衛消防訓練

昨年12月13日(火)、自衛消防訓練が附属病院で実施された。新規採用の教職員を中心に学内外約40名が参加した。病院棟3階総合歯科診療室付近から火災が発生し、逃げ遅れた者がいるという想定に基づいて行われた。5階に設置している垂直式救助袋を利用した避難では、参加者が積極的に脱出の訓練にあたった。また、消火器を用いた訓練では、新人歯科衛生士等が屋外で実際に放水を行い、消火に必要な技術を訓練した。



自衛消防訓練

奥羽大学報 173号 (No.298) (令和5年3月発行)

献体者合同慰靈式・実験動物供養

5月30日(火)午後1時から郡山市片平町靈鷲山常居寺にて、献体者合同慰靈式と実験動物供養が厳かに執り行われた。新型コロナウイルス感染症は5月8日から5類感染症となったが、本学では感染対策に変更はない。そこで、今年度も新型コロナウイルス感染症への対応として、ご遺族や白菊会会員ならびにご来賓、第2学年全学生の参列は取りやめ、大学関係者と学生代表者のみで実施した。常居寺本堂にてこれまで献体された御靈に黙祷を捧げ、ご導師様の読経後、学長式辞、学生代表の出光陽さんによる追悼の辞、参列者焼香に引き続き、実験動物供養を行った。その後、慰靈碑の参拝および学内関係者と学生代表の岡野朔也さんによる献花をして終了した。

奥羽大学報 174号 (No.299) (令和5年6月発行)

登院式

4月7日(金)、病院棟5階臨床講義室で歯学部第5学年53名の臨床実習登院式が行われた。大野敬附属病院長から、これまでの学習で不足している知識を補充していくことの必要性や、模型とは異なり、患者さんに対応する実習であることの注意点について訓示があった。学年学生委員長の日黒翔太さんが代表として、附属病院のルールに則って臨床実習を行うことを宣誓した。今後、各診療科でローテーション方式の実習が行われる。



53名が臨んだ登院式

奥羽大学報 174号 (No.299) (令和5年6月発行)

歯科医師臨床研修開始式

4月1日(土)、歯科医師臨床研修開始式が中央棟6F教1にて挙行された。単独型研修プログラムA:10名、地域医療短期プログラムB:6名、地域医療長期研修プログラムC:2名の計18名の研修開始が大野敬附属病院長から許可された。

研修歯科医は、患者や家族の多様なニーズに対応でき、超高齢社会という現状の中で、歯科医師が担うべき社会的使命を認識し、地域医療に貢献できる歯科医師となるべく、生涯研修の第一歩を踏み出した。



歯科医師臨床研修開始式

奥羽大学報 174号 (No.299) (令和5年6月発行)

明海大学歯学部

新学長に中嶋裕を選任しました

学校法人明海大学は2月21日開催の理事会において、中嶋裕を学長に選任しました。

これは安井利一現学長が3月末日で任期満了することに伴うもので、新学長の任期は、2023年4月1日より3年間となります。

◆新学長略歴

中嶋 裕 (なかじま ひろし)

学歴 :

1976年3月 慶應義塾大学工学部応用化学科卒業
1982年3月 城西歯科大学（現 明海大学）歯学部歯学科卒業
1986年3月 城西歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了（歯学博士）

職歴 :

1986年4月 城西歯科大学助手
1987年4月 城西歯科大学大学院助手
1988年2月 Baylor College of Dentistry (Texas, USA), Visiting Scientist
1990年7月 Baylor College of Dentistry (Texas, USA), Assistant Professor
1991年7月 Baylor University Graduate Faculty Regular Member
1997年10月 明海大学歯学部教授
明海大学大学院歯学研究科教授
2003年5月 学校法人明海大学評議員（現在に至る）
2008年4月 明海大学歯学部長
明海大学大学院歯学研究科長
学校法人明海大学理事（現在に至る）



明海大学ホームページ（令和5年2月掲載）

シエナ大学(イタリア)と 学術交流協定を再締結しました

本学歯学部は、3月28日にシエナ大学(イタリア)と学術交流協定を再締結しました。同校とは2008年4月に姉妹校協定締結以来、教員派遣や学生の交換研修を通じて相互交流を深めており、2022年12月にはシエナ大学教員1名及び学生2名の受入を行い、2023年3月3日～10日までの7日間、本学教員1名及び学生(5年生)2名がシエナ大学にて研修を実施しました。調印式は明海大学東京事務所にて行われ、シエナ大学のマルコ・フェラーリ歯学部長、宮田淳理事長、安井利一学長、大友克之朝日大学学長が協定書に署名を行い、今後ますますの交流促進を誓いました。

明海大学は建学の精神に則り、国際未来社会で活躍する人材の育成に努めてまいります。



明海大学ホームページ(令和5年4月掲載)

アメリカ矯正歯科学会の学会誌で 2022年最優秀論文賞を受賞

歯学部歯科矯正学分野と口腔顎顔面外科学分野の共著論文が、アメリカ矯正歯科学会(American Association of Orthodontists)の学会誌である American Journal of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics の2022年最優秀論文賞(CDABO award: 症例報告部門)を受賞し

た。

この受賞にあたり、アメリカシカゴ市で開催されたアメリカ矯正歯科学会年次総会(2023年4月21日～24日)において、佐々木会講師(歯科矯正学分野)と須田直人教授(歯科矯正学分野)が表彰された。この快挙により明海大学歯学部と明海大学病院の高い臨床力が国際的にも評価された。

<受賞対象論文>

Orthodontic treatment of a skeletal Class III malocclusion with severe root resorption of the maxillary anterior teeth. Autotransplantation using a 3-dimensional printed replica of the donor tooth
Au Sasaki, Mai Fujimoto, Kouta Fujimoto, Rei Shinagawa, Takuya Sonokawa, Toru Takusagawa, Naoto Suda

Am J Orthod Dentofacial Orthop. 2022 Feb;161(2):281-292.



受賞した佐々木講師(中央左)須田教授(中央右)

MEIKAI NEWS LETTER 第251号(令和5年7月発行)

申基皓副学長・歯学部長 日本歯周病学会賞を受賞

5月26日から27日、香川県高松市のレクザムホールで開催された「第66回春季日本歯周病学会学術大会」において、申基皓副学長・歯学部長が日本歯周病学会賞を受賞し、表彰された。

この賞は、日本歯周病学会における活動に功労のある者を表彰することを目的とし、歯周病に関する多年の優れた研究、教育あるいは臨床業績により学会の発展に寄与し、かつ役員として学会の運営に著しく貢献した者に贈られる。申副学長・歯学部長は今回の受賞について「1985年に日本歯周病学会に入会して以来、1997年に評議員、2003年には理事を拝命し、今年で38年が経ちました。この間、口腔インプラント委員会、専門医委員会、用語委員会の委員長、2021年から2年間は会計担当理事という重職を任せいただき、学会に貢献してまいりました。また、学会活動ならびにこの度の受賞に関



申基詰副学長・歯学部長(左から3番目)

して、学校法人明海大学ならびに歯周病学分野の皆様のご理解、ご支援をいただきました。ここに改めまして深甚なる感謝の意を表します」と話した。

MEIKAI NEWS LETTER 第251号（令和5年7月発行）

■東京歯科大学■

2023年度フレッシュマンセミナー開催

2023年4月26日(水)から28日(金)までの3日間、かずさアカデミアパーク(千葉県)において、2023年度フレッシュマンセミナーが開催された。本セミナーは「歯科大学1年生としての学習の心構え」、「How to learn, how to study」、「新入生同志の親睦」の3点を目的としている。

1日目は、かずさアカデミアパークに到着後、午前11時30分から開講式、社会歯科学講座の平田創一郎教授より「シラバスから活用する資料配布とプレ・ポストテスト」の概要説明が行われた。続いて「歯科医師たる前に人間たれ」と題した講演が語学研究室の松浦由美子准教授より行われた。昼食後はグループ毎に分かれて「シラバスから活用する資料配布とプレ・ポストテスト」についてアイスブレーキングをかねて討議し、討議内容についての全体発表が行われた。午後3時55分からは本学卒業生の石井大貴大学院生による「卒業生からのメッセージ①」と題した講演が行われた。講演後、山本仁副学長より「ディベート」についてのグループ討議の概要説明があり、午後5時から1回目のグループ討議を行った。最終日に行われる公開ディベートは、新入生を12のグループに分け、与えられたディベートテーマに基づきグループ対抗で実施される。その準備としてグループ討議の時間に情報収集をし、立論スピーチの作成や質疑応答の整理を行っていく。午後6時30分から夕食をとった。夕食は円卓を囲んでの形となり、新入生およびチューターの教員で和やかな時間を過ごした。夕食後は午後9時まで2回目のグループ討議を行った。

2日目は、午前9時より3回目のグループ討議を行い、公開ディベートに向けて、チューターの指導を受けながら

活発に討議が進められた。昼食後の午後1時より本学卒業生の岩澤弘樹大学院生による「卒業生からのメッセージ②」の講演が行われた。その後、4回目のグループ討議を行い、午後5時20分からはクラウンブリッジ補綴学講座の関根秀志教授、物理学研究室の池上健司教授、病理学講座の松坂賢一教授の順で「歯科臨床のための、基礎学問と教養科目」と題した講演を行った。2日目の夕食時にはbingoゲームが開催され、新入生同士、より親睦を深めるきっかけとなり、大変盛況であった。夕食後には5回目のグループ討議を行い、新入生たちは翌日の公開ディベートに向けてグループで一丸となって準備に取り組んでいた。

最終日は午前9時より3会場に分かれて公開ディベートを行い、各会場とも白熱した議論が展開され、充実した公開ディベートとなった。昼食後、山本副学長より公開ディベートの講評が行われた。閉講式を終えたのち、バスにてさいかち坂校舎に戻り、3日間にわたるフレッシュマンセミナーの全日程を無事に終了した。3日間で新入生たちはグループ討議を行うことで親睦を深め、卒業生らによる講演を聞くことにより本学にて学ぶことの意欲を高めることができた。この3日間での新入生の成長は目まぐるしく、これから6年間を本学で学んでいく第一歩として大変有意義なセミナーであった。



グループ討議の様子



公開ディベートの様子

東京歯科大学広報 第309号（令和5年6月発行）

2022年度 口腔科学研究センター ワークショップ開催

2023年2月22日(水)午後4時より、口腔科学研究センターワークショップがWEBで開催された。

東俊文口腔科学研究センター所長の司会で開会し、一戸達也学長よりご挨拶を頂いた後、東口腔科学研究センター所長から、ワークショップの概要について説明が行われた。

引き続き、2022年度顎骨疾患プロジェクトの進捗・成果報告および2023年度新プロジェクトの概要が、プロジェクト推進委員長の山口朗客員教授（口腔科学研究センター）と各グループリーダーである大野建州講師（口腔科学研究センター）、濵川義幸教授（生理学講座）、菅原圭亮准教授（口腔病態外科学講座）、溝口利英教授（口腔科学研究センター）から行われた。

最後に、学長奨励研究助成採択者の小田由香里助教（口腔インプラント学講座）、山下慶子助教（歯周病学講座）、山本将仁講師（解剖学講座）、浅原史卓助教（市川総合病院外科学講座）、コア研究部門の黄地健仁助教（生理学講座）、中村貴講師（生化学講座）、今村健太郎講師（歯周病学講座）の研究成果報告が行われ、笠原正貴実験動物施設管理部長の閉会の辞により終了した。

当日は、220名の方が参加し、活発な論議が繰り広げられた。

東京歯科大学広報 第309号（令和5年6月発行）

■ 昭和大学歯学部 ■

昭和大学病院入院棟17階 特別病棟 開設

令和5年4月1日、より快適な入院生活の提供を目指し、昭和大学病院入院棟17階に特別病棟を開設しました。病棟コンシェルジュを配置し、質の高いサービスを提供して入院生活をサポートします。

全20床の病室（Aタイプ2室、Bタイプ2室、Cタイプ16室）は完全個室仕様で、病院最上階からの景色を堪能でき、快適な時間を過ごせる上質な空間となっています。最も広いAタイプの病室は面積45.5m²で、ゆったりサイズの浴室やアメニティが充実した洗面室、食器を一通り揃えたキッチン、テレビと広々としたソファのある談話室があり、快適性を備えたくつろぎの空間となっています。

また、特別病棟直通のエレベーターを設置し、快適な移動を可能としました。



特別室 A タイプ



特別室 B タイプ



特別室 C タイプ



オープニングセレモニーの様子

昭和大学新聞 第613号（令和5年5月発行）

富士吉田キャンパス「赤松寮」竣工

昭和大学の大きな特色の1つが、50年以上も続く富士吉田キャンパス（山梨県富士吉田市）での初年次全寮制教育です。1965年に医学部の男子寮1棟のみでスタートし、現在は学生寮4棟（男子寮2棟、女子寮2棟）で全学部の1年生全員（約600人）が1年間の共同生活を送っています。

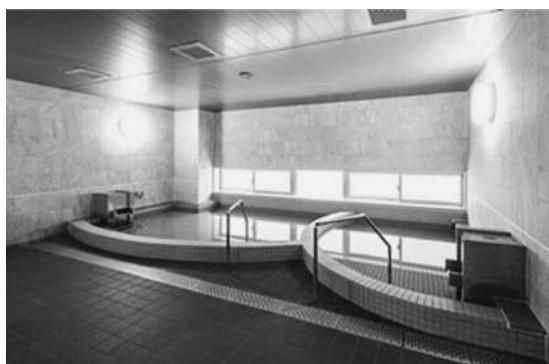
本学の学生寮では、学部・学科の異なる4人が同室になるように部屋割りを行っており、寮生活を通してそれぞれが目指す職種への理解を互いに深めるとともに、医療人に欠かせない他者への思いやりのこころを育み、チーム医療の基盤となるコミュニケーション能力や問題解決力などを身に付けることができます。

令和5年6月30日、富士吉田キャンパス整備計画の一環として、新男子寮「赤松寮」を竣工しました。地上5階建てで、他4棟の学生寮と同様、学生4人につき学習用・寝室用にそれぞれ1部屋が配置され、共同スペースとして、学習スペースやラウンジ、浴室などがあります。浴室には昭和大学富士吉田温泉が引き込まれ、毎日、温泉を楽しむことができます。

この赤松寮は、既存の男子寮1棟に替わり、令和5年8月31日から運用を開始しました。



ラウンジ



温泉が引き込まれた浴室

昭和大学新聞 第615号（令和5年9月発行）



赤松寮の外観



学習室

■日本大学歯学部■ 歯学部のカリキュラムについて

歯学部では、教育目的に掲げる有為な歯科医師の養成を推し進めるために、共用試験（CBT、OSCE）の公的化、歯学教育モデルコアカリキュラムや歯科医師国家試験出題基準の改訂など歯科医師養成に関する最新の動向を踏まえ、カリキュラムの検討を重ねてきました。この度、令和5年の第1学年より、新カリキュラムでの履修がスタートしましたので、その特徴をご紹介します。

新カリキュラムでは、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）ならびにコンピテンス・コンピテンシーとして掲げる能力の修得に必要となる科目群を、10のコースとして示しています。

- コース歯科医学を学ぶための基礎：物理学1・2、化学、生物学、医療統計学、データサイエンス
- コース社会と歯学：衛生学1・2、社会歯学1・2、法医学
- コース診察の基本：歯科放射線学1・2、口腔内科学1・2、診査診断学
- コース全身管理：生理学1・2、生化学1・2・3、薬理学1・2、歯科麻酔学1・2
- 口腔と顎顔面疾患の治療：解剖学（骨）、解剖学（筋・内臓・神経・脈管・感覺器）、人体解剖学実習、

- 歯の解剖学、組織・発生学、口腔組織学、病理学1・2、口腔外科学1・2
- 歯と歯周組織の治療：感染症免疫学1・2、保存修復学1・2、歯内療法学1・2、歯周病学1・2
 - 歯質と歯の欠損の治療：歯科理工学1・2、顎口腔機能学、全部床義歯学1・2、冠橋義歯補綴学1・2、部分床義歯補綴学、口腔インプラント学
 - 小児歯科・矯正歯科治療：小児歯科学1・2、歯科矯正学1・2
 - スペシャルニーズデンティストリー：高齢者歯科学、有病者歯科学、摂食機能療法学、隣接医学1・2・3、歯科治療の多様化
 - 歯科医師として求められる基本的な資質：自主創造の基礎、日本を考える（選択）、歯科医学入門1・2、英語1・2、スポーツ健康科学1・2、歯科臨床早期見学実習、プロフェッショナリズムと行動科学、医療コミュニケーション学、歯科臨床見学実習、研究の実践（選択）、歯科臨床体験実習、最先端歯科医療学、生涯学習とキャリアデザイン、プロフェッショナリズムと行動科学

桜歯ニュース 第218号（令和5年4月発行）

■日本大学松戸歯学部■

新学部長に福本雅彦教授が就任



松戸歯学部長 福本 雅彦

令和5年（2023年）4月1日付で、松戸歯学部長に就任いたしました。松戸歯学部は創設50年を迎える新たなステージへとあゆみ始めました。半世紀もの時の流れは社会を大きく変化させました。50年前は夢物語であった「携帯電話」が、今はスマートフォンへと進化し、自宅の固定電話や公衆電話の存在感は薄れるばかりです。また、レコードで聞いていた「音楽」がCDからサブスクリプションとなり、「カメラ」はデジタルを経て高画質なカメラ付きスマホへと進化しました。アナログからデジタル化への波は、歯科の世界でも変革をもたらしています。このような時代の変遷を背景に社会が求

める人材像も変化しました。これまででは、指示待ちの受け身の姿勢でも社会から容認される時代でした。しかし、これからの時代は、自ら進んで行動する人材が求められます。つまり日本大学の教育理念である「自主創造」です。このことに鑑み松戸歯学部は「自ら行動を起こす」「明確な目標設定ができる」「コミュニケーション力が高い」「人の意見を受容できる」「他人と協力し合える」「リーダーシップ力がある」という人材を育成することに注力します。そのためにアクティブラーニングの更なる推進や講義形態の改革などを行うと共に、これを念頭に令和6年4月から運用開始の新校舎では、ラーニング・コモンズエリアの充実やICT環境の整備が図られています。松戸歯学部は「自主創造」を構成する3つの要素である「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」ことができる歯科医療人の育成を全教職員が一丸となって推し進めています。

松戸歯ニュース 第183号（令和5年4月発行）

新病院長に平山聰司教授が就任



病院長 平山 聰司

令和5年（2023年）4月1日付で、日本大学松戸歯学部付属病院病院長を拝命いたしました。就任にあたりご挨拶申し上げます。

私は松戸歯学部を9期生として卒業し、その後は付属病院保存科で37年間、臨床と学生・研修医の教育・研修に奔走してきました。平成18年（2006年）には、旧病院棟から現在の病院棟への移転、電子カルテの導入や令和2年（2020年）からの新型コロナ感染症による医療的危機など付属病院を取り巻く様々な環境の変化に対応し、多くのことを学んで参りました。

本付属病院は、松戸歯学部の教育理念である口腔の健康が全身の健康を支えるという「医学的歯科学」の実践者として、患者のニーズに合った最良の医療が提供できるよう診療システムの改善に取り組んでおります。特に2021年から河相安彦前病院長のご尽力により、従来の治療優先であった病院機能に加えて、小児期から高齢者に至るすべての患者に対応するために口腔機能の向上と

維持・管理および未病患者の「予防」に軸足を置いた将来型病院新機能へと改革を進めて参りました。具体的には「口腔健康管理部」に「子どもの口の発達外来」、「オーラルフレイル外来」や「歯周病管理外来」を新たに設置しました。さらに本年4月には「医科診療部」に従来の内科、脳神経外科、頭頸部外科・耳鼻咽喉科に加え「心臓血管外科」を開設し、歯科治療だけでなく全身疾患を有する患者さんの医科的治療が行えるよう医科と歯科医療の連携充実を図っています。今後は、通院が困難となった本付属病院の受診患者さんに対する在宅診療や高齢者施設への訪問診療の充実を図る体制作りを推進して参ります。

また、本付属病院は教育・研修機関として地域社会の歯科医療に貢献できる歯科医師を育成する責務があります。私が院内生であった当時から松戸歯学部における臨床実習は、歯科医師として備えるべき態度教育を第一として、厳しい中にも日本大学の教育理念である「自主創造（自ら学ぶ・自ら考える・自ら道をひらく）」の気風に満ちていたと思っています。このような伝統を生かしながら、学生にとって国家試験合格のための仕上げ教育の場として、研修医にとっては基本的診療能力と医療倫理を兼ね備えた“即戦力”的歯科医師育成の場となるよう環境整備を行って参ります。

病院財政の安定化や診療医員数の増員対策など取り組むべき課題が少なくありません。しかし、これらの諸問題に教職員が心を一つにして果敢に取り組んでいけるようリーダーシップを發揮して参ります。松戸歯学部関係者の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導、ご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

松戸歯ニュース 第183号（令和5年4月発行）

■ 日本歯科大学生命歯学部 ■

高橋英登 日歯会長に当選



日本歯科医師会長予備選挙の開票が、2月14日に千代田区の歯科医師会館において行われた。その結果、高橋英登先生（66回卒・東京）が、投票総数600票のうち319票の過半数を得て当選した。日歯定例代議員会を

経て、6月に日本歯科医師会長となる。任期は2年。

日本歯科大学新聞 第682号（令和5年3月発行）

羽村章教授が受賞 日本歯科医学会会長賞

生命歯学部高齢者歯科学の羽村章教授は、2月24日に開催された日本歯科医学会評議員会の日本歯科医学会会長賞の授与式において、令和4年度会長賞（教育部門）を受賞した。

日本歯科大学新聞 第682号（令和5年3月発行）

本学創立117周年式典



コロナの予防対策をして参列した代表(富士見ホール)

富士見に代表が参列

日本歯科大学創立117周年記念式典は、6月1日の創立記念日に東京富士見の本館富士見ホールにおいて、代表約84名が参列して挙行された。

今式典には、コロナ禍で中止になっていたジュビリー5025のうち、50の先生方31名が臨席した。

午前11時、牛込剛庶務部長が開会を宣し、例年通り築土神社の神職による神事が執り行われた。修祓、降神ののち、祝詞で本学の沿革が奏上された。参列者を代表して中原泉理事長が、神前にすすみでて、玉串を奉奠し全員が拝礼した。

次いで、藤井一維学長が玉串奉奠し拝礼した。

神職退場ののち、中原理事長が挨拶にたち、中原市五郎先生はじめ幾多の先人に感謝を捧げた。本館1階メモリアルホールの記念ボードの由来にはじまり、韓国人のハムソクテ先生（大正元年・認定第2回卒）は、韓国の歯科医籍の第1号であることが判明したこと。防衛省陸上自衛隊勤務の相羽寿史先生（81回卒・静岡県）が、このほど陸将補（旧日本陸軍の少将に相当）に昇任したこと。東京短期大学の神楽坂上の新築が8月に着工し、来年10月に6階建が竣工し移転すること。

新潟生命歯学部の優秀な受験生を増やすため、来年度より同学部の学納金を、新入生・在学生とも一律に約一千万円減額すること。近く飯田橋駅西口の改修により、本学の体育館・病院側に階段の出入口ができること。等を報告した。



つづいて、名誉博士号授与式に移る。

中原理事長は、東京医科歯科大学卒・元北大教授の小口春久先生を紹介し、本学の客員教授、東京短大学長等を20年にわたって勤めた先生の功績を称賛した。

ここで、中原理事長より小口先生に、第26号の名誉博士の学位記が授与された。このあと、小口先生は本学での20年を熱っぽく語り、謝辞とされた。



名誉博士 小口春久 先生

ついで、永年勤続者表彰に移る。

20年勤続者14名、30年勤続者13名が呼びあげられ、代表して影山幾男教授が、中原理事長より表彰状を授与された。

加えて、本日6月1日に校友会会长に就任した渡邊儀一郎先生が、新任の挨拶にあわせて、母校と校友会の厚い絆について感謝を述べ、今後も母校と校友会の一体的な関係を祈念した。

このあと、出席したジュビリー50を代表して、吉岡重保先生（59回卒・東京都）が、卒後50年の心のこもった感懷を述べ、式典招待を感謝した。

これをもって、12時半に閉式した。

日本歯科大学新聞 第685号（令和5年8月発行）

本学第2回卒のハムソクテ先生 韓国の歯科医籍の第1号



本学卒業頃のハムソクテ先生

韓国ソウルから3月、3名の歯科医師が富士見に来校した。權薰（クォンファン）先生たちは、韓国人で日本の歯科医学校を卒業した二人の歯科医師を探していた。彼らは本学の図書館で名簿や資料をめくり、「あッ、やっぱり日歯だ！」と二人の名前を見つけた。

一人は咸錫泰（ハムソクテ）先生で、大正元年（1912）10月に本学を卒業した。認定第2回卒である。当時は秋卒もあり、同級生は15名であった。

權先生によると、ハムソクテ先生は韓国の歯科医籍の第一号である。当時、朝鮮には歯科医学校はなく、日本へ留学して歯科医師免許を取得したのである。

先生は帰国後、朝鮮歯科協会（日本歯科医師会に当たる）の初代会長をつとめた。

もう一人は林澤龍（リムテクヨン）先生で、大正11年（1922）の本学第11回卒である。先生はソウルの「セブランス」という伝統ある病院に、最初の歯科医師として勤務した。

自国の先人の足跡を追ってきた權先生方は、史実を確認して喜んで帰国した。

日本歯科大学新聞 第685号（令和5年8月発行）

■ 日本歯科大学新潟生命歯学部 ■

中原賢新潟生命歯学部長 副学長を併任

新潟生命歯学部先端研究センター中原賢教授は、4月1日付にて副学長を併任した。

略歴：中原教授は、平成18年日本歯科大学卒業（95回）、東京歯科大学大学院を経て、23年4月新潟生命歯学部先端研究センター助教となる。23年より2年半ベルン大学医学部頭蓋顎面外科学講座へ留学、准教授を



経て、平成29年に教授に就任した。令和2年より新潟生命歯学部長を併任する。

日本歯科大学新聞 第683号（令和5年4月発行）

■ 神奈川歯科大学 ■

歯学部ベストティーチャー賞の導入について

2022年度より歯学部ベストティーチャー賞を導入しました。この賞は、学生目線での教育を行った教員を表彰し、講義に対するモチベーション向上を目指すこと、受賞した教員の講義法を広く他の教員に共有してもらい、大学全体の授業力アップを図ることを目的としています。



学年	受賞者（該当科目）
1	林田丞太（総合歯科学Ⅰ／法学）
2	河田亮（人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ／発生と発育／歯と歯周組織の常態／病因・病態Ⅱ）
2	天野カオリ（人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ／人体の構造実習Ⅰ）
3	長谷川巖（全身と口腔（総合医学）Ⅱ・Ⅲ）
4	窪田光慶（総合歯科学 矯正）
4	浜田信城（総合歯科学 細菌）
4	東雅啓（総合歯科学 解剖）
5	讃岐拓郎（臨床実習Ⅰ 麻酔）
5	浅里仁（臨床実習Ⅰ 小児）
5	向井義晴（臨床実習Ⅰ 修復）
6	鈴木健司（臨床実習Ⅱ 口腔外科）
6	今泉うの（臨床実習Ⅱ 麻酔）
6	渕田慎也（臨床実習Ⅱ 社会歯科）

投票者は学生で、1月から2月の総合試験、モジュール試験終了後にオンラインで行いました。1～3年では投票数が少なく1、2名の選出となり、4～6年ではCBT、国試対策もあり積極的な投票が行われ、各3名が選出されました。今後は学生への周知を積極的に行い、神奈川歯科大学の教育の改善のために発展させていく予定です。

なお、表彰は4月11日（水）の教授会で行われました。
学校法人神奈川歯科大学新聞 第46号（令和5年5月発行）

横浜クリニックだより

院長就任ご挨拶 木本克彦先生

2023年2月1日付で院長に就任いたしました。当院は2002年に開院して、今年で21年目を迎えます。歯科大学の附属病院ではありますが、開院以来、医科部門の充実を図り、現在では、眼科・耳鼻いんこう科・内科（一般内科/消化器内科/循環器内科/糖尿病代謝内科/認知症・高齢者総合内科）・麻酔科・画像診断科を開設し、歯科部門と協働しながら、横浜駅エリアでは唯一の医科歯科連携医療機関として地域医療に参画してまいりました。これからも当院の全医療スタッフが更なるやりがいと誇りをもって、よりよい医科歯科連携クリニックを目指してまいりますので、今後とも皆様方からのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



世界最高峰の320列マルチスライスCTが導入されました！

2023年より当院に国内最高性能の最先端超高性能CTスキャナ（320列マルチスライスCT撮影装置）キャノンAquilion One/Natureを導入いたしました。高速度で一度にスキャンできる範囲が広がるため、これまでのCTと比べて放射線量を平均で1/6程度まで軽減できるうえに全身の細微な病変や脳、心臓領域の診断に適しています。循環器領域での冠動脈造影CT検査では通常の0.5mmスライスをAI技術により0.25mmスライス化するPIQEプログラムを搭載した神奈川県第1号機で、県内最高水準の検査を横浜市立大学医学部循環器内科と提



携して行っています。今後さらに急性期疾患や日常診療で必要なフォローアップや人間ドックでの活躍が期待できます。

JR 横浜駅から最も近い立地条件で地域医療に貢献してまいりますので、お気軽に受診していただければ幸いです。

学校法人神奈川歯科大学新聞 第46号（令和5年5月発行）

防災訓練

今年度第1回自衛消防隊訓練を2023年8月22日(火)に1号館で実施しました。自衛消防隊は火災及び地震などの災害時の初期活動や応急対策を円滑に行い、構内利用者の安全を確保するため学内に設置されています。災害時の自衛消防活動において、学生や教職員の安全を確保するためにも自衛消防隊組織の訓練は重要となります。

また、本学では大規模災害により被災した学生および教職員に対する一時的な救援を目的として、非常用備蓄を整えています。今回の訓練では、保存期限が近づいた非常用飲食料を使っての配布訓練も併せて実施しました。

南海トラフ地震、首都直下地震、東海地震等の発生が懸念されていますので、本学でも非常用備蓄を増やしているところですが、各個人でも日頃から防災対策をしておくことで、災害による被害を少なくすることができます。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第47号（令和5年9月発行）

■鶴見大学歯学部■

岡部早苗歯科衛生士(附属病院)、千葉敏江技術員(解剖学講座)が「令和4年度医学教育等関係業務功労者」の表彰

令和4年12月21日(水)に、文部科学省主催の令和4年度医学教育等関係業務功労者表彰式が行われ、本学附属病院歯科衛生士の岡部早苗氏と解剖学講座技術員の千葉敏江氏が文部科学大臣表彰を受けました。

この表彰は文部科学省が医学または歯学における教育、研究もしくは患者診療等に係る補助的業務に関し顕



左から岡部早苗氏、千葉敏江氏

著な功労のあった方に授与するもので、永きにわたる多大な業績が評価され顕彰されました。両名の表彰を心からお祝い申し上げるとともに、今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。（歯学部長 大久保 力廣 記）

鶴見大学報 第436号（令和5年3月発行）

ナウマンゾウ化石発掘！ 歯学部歯科理工学講座三島弘幸研究員が 第23次野尻湖発掘に参加しました

長野県上水内郡信濃町の野尻湖で2023年3月18日から27日にわたり、第23次野尻湖発掘が行われました。この発掘に、歯学部歯科理工学講座三島弘幸研究員が参加しました。1962年の第1次野尻湖発掘から始まり、これまで22回の湖底発掘が行われてきました。三島弘幸研究員は1973年の第5回発掘から参加しております。発掘は野尻湖方式という独特の市民参加型で行っております。2年おきに発掘が行われてきましたが、コロナ禍の影響で延期され、2018年以来の5年ぶりの発掘でした。今回の発掘参加者は日帰り参加者を含めて、のべ216名でした。三島研究員は23日から26日まで参加して、哺乳類班という哺乳類化石を扱う専門班で活動していました。

野尻湖湖底の6.1万年前から3.8万年前の地層からは、哺乳類化石ではナウマンゾウ化石、ヤベオオツノジカ化石、ニホンジカ類化石、ヘラジカ化石、ヒグマ化石、ノウサギ化石が発見されてきました。発見された化石では、ナウマンゾウが90.3%、ヤベオオツノジカが9.4%と大半を占め、他の産出地域とは異なる産出状況となっています。また、骨器や石器が発見されています。キルサイト（ナウマンゾウなどの動物の狩猟・解体場）としての状況証拠があります。日本には約4万年前にヒトが流入したとされています。発掘では、ヒトがいた痕跡やキルサイトの確実な証拠を見つけることが大きなテーマとなっています。今回の発掘では、哺乳類化石では、ナウマンゾウ指骨（基節骨）、寛骨片、上顎第2大臼歯片、



発掘風景、野尻湖発掘調査団提供

胸椎、肋骨などが発見されました。また偶蹄類の足跡群（行跡）も発見されました。しかし、キルサイトの証拠がまだ確実なものではなく、次回の発掘に持ち越されました。（歯学部特任教授 早川 徹 記）

鶴見大学報 第438号（令和5年5月発行）

名誉教授の称号を授与

令和5年6月1日付で早川徹氏（元 鶴見大学歯学部教授、現 鶴見大学・鶴見大学短期大学部副学長、現 鶴見大学歯学部特任教授）、吉村順子氏（元 鶴見大学文学部日本文学科教授）、下田信治氏（元 鶴見大学歯学部教授）、加藤保男氏（元 鶴見大学短期大学部歯科衛生科教授）に、鶴見大学名誉教授の称号が授与された。



左から加藤保男氏、吉村順子氏、中根学長、早川徹氏、下田信治氏

鶴見大学報 第439号（令和5年7月発行）

新入生本山参禅会

本学の建学の精神を具現化するための重要な行事である「新入生本山参禅会」は、毎年大本山總持寺において実施している。今年度は、コロナ禍で実施できなかった3年間を経てやっと行うことができた。

歯学部歯学科1年生は、5月19日(金)に実施され、短い時間ではあったが静寂の中で坐禅等を行ったことで、これから学生生活に向けて各々が志を再確認できる貴重な体験となったことだろう。



〈学生の感想〉

本学の建学の精神「大覚円成 報恩行持」と今回の参禅会で学んだ禅の教えを胸に学園生活を送り、将来歯科医師になった際にも心に留めながら患者さんと誠実に向き合っていきたいと考えている。

鶴見大学報 第439号（令和5年7月発行）

■松本歯科大学■

歯科矯正学講座・ 薄井陽平非常勤講師が開発 毛先を約15度にカットし 磨きやすさを追求した 新しい歯ブラシ「O-SENSE」

本学24期生で歯科矯正学講座非常勤講師の薄井陽平先生（医療法人M&D歯科・矯正歯科GOOD SMILE理事長）が、磨きやすさを追求した歯ブラシ オーラルドクター「O-SENSE」を監修・開発し、ヘルスケア製品などを手がけるエイコー株式会社より発売された。細部までしっかりと磨ける歯ブラシとして注目を集めている。



薄井先生が開発した極薄ヘッドの歯ブラシ

歯科医療のフィールドにおいて、歯ブラシは歯の汚れを取り除く必須アイテムである。このような歯ブラシの重要性に鑑み、これまで松本歯科大学は、年齢や口腔機能に配慮した歯ブラシの開発などに携わってきたが、今回新たに薄井先生が、磨きやすさを追求した歯ブラシ「O-SENSE（オーセンス）」を開発した。

開発に至った経緯について薄井先生は「日々の診療において歯科衛生士や患者様から、磨き残しや奥歯の磨きづらさなど歯磨きに関する感想を聞き、心地よくブラッシングができる歯ブラシの必要性を認識したため」と話す。

本製品の特徴は、植毛本数2400本の毛先が約15度に傾斜カットされたコンパクトなブラシヘッドである。毛先に角度を付けることで歯の形にフィットし、最後方臼

歯遠心面のブラッシングが容易にできる。その他の歯の間や、奥歯の咬み合わせ部までしっかりと毛先が当たり、歯垢を除去する。さらに、柄は歯に理想の角度と加圧でブラッシングできるよう、またペンシルフィンガーで把持しやすい形状に設計されている。

薄井先生は、本学微生物学講座・吉田明弘教授の指導の下、歯科矯正学講座非常勤講師の三原正志先生と共同で第4級アンモニウム塩による殺菌機構を研究している。

今回開発した歯ブラシは研究を進める中で完成した第一段階の製品であるとし、薄井先生、三原先生は現在、歯ブラシの抗菌効果に着目した研究も進めており、抗菌作用を持つ歯ブラシの開発を行っている。

コロナ禍において、歯ブラシなど日常生活に必須の道具を介した感染からの防御は今後さらに重要であると考える。薄井先生と三原先生の今後の研究成果に期待したい。



開発製品を持つ薄井先生(右)とポスターを掲げる三原先生

Campus Today 第470号（令和5年3月発行）

姉妹校・河北医科大学代表団が来学

創立者の偉業と長年にわたる両大学の友好関係を称え矢ヶ崎理事長に「河北医科大学口腔医院名誉院長」の称号贈る

中国の河北医科大学の代表団が5月24日(水)、本学を訪問した。コロナ禍の影響でしばらく見合わせていた対面交流の再開で、本学の役員や教員、河北医科大学の卒業生、そして中国籍の留学生らが熱烈歓迎した。河北医科大学からは矢ヶ崎 雅理事長に「河北医科大学口腔医院名誉院長」の称号が贈られ、これまでの功績が称えられた。今回の訪問は、両大学の姉妹校締結後、35年以上にわたる友好関係の再構築を図るための重要な一步となった。

河北医科大学の代表団は、倪 鐵軍党委副書記をはじめ、李 增寧口腔医院党委書記、張 瑞麗看護学院院長、張 奇国际合作交流処処長、趙 璞口腔医院修復科教授のメンバー5名で構成され、本学を訪れた。

大学の正面玄関には中国と日本の国旗が掲揚され、玄関ホールには中国出身の留学生・董家宇君が揮毫した横断幕「熱烈歓迎 河北医科大学」が掲げられて、大学全体が歓迎ムードに包まれた。

代表団は到着直後、松本歯科大学の創立者である矢ヶ崎康先生の銅像に向かい、河北医科大学及び河北医科大学研修生一同からの感謝のメッセージを記した感謝のスタンド花を捧げ、創立者の偉業と両大学の連携に敬意を表し、感謝の意を込めて深く一礼した。



河北医科大学より贈られた生花の前の代表団 献花立札の「両校友好先駆者」(左)と「徳厚流光・銘感不忘」は、両校の友好の先駆者であられる創立者の矢ヶ崎康先生は人格が高く、年月が経ってもその恩情を深く心に刻んで忘れない

その後、創立30年記念棟常念岳会議室で、矢ヶ崎理事長をはじめとする大学の役員と懇談を行った。倪党委副書記から矢ヶ崎理事長に「河北医科大学口腔医院名誉院長」の称号が贈られ、これまでの功績が讃えられた。矢ヶ崎理事長は謝辞を述べ、「代表団の皆さんの訪問を心待ちにしていました。両大学の友好関係が今後さらに発展していくことを願います」とあいさつした。また、河北医科大学の関係者も「松本歯科大学との対面交流再開は喜ばしいことであり、両大学が互いの強みを生かし合いながら、より高い学術水準と国際的な競争力を獲得するために協力していくことを期待しています」とコメントした。



病院インプラントセンターを視察する代表団

夕方には本学図書会館の1階ホールで盛大な親睦会が開催された。本学役員や教員、本学在学生、河北医科大

学の卒業生、そして中国籍の留学生ら約40人が参加した。この親睦会では、留学経験や臨床実習プログラムに関する交流について活発に語られ、深い友情が生まれた。

両大学は新型コロナウイルスパンデミックの制約を克服し、再び友好関係を深めるための努力を続けている。今後、両校の友好交流が一層促進されることが期待される。

Campus Today 第473号 (令和5年6月発行)

チームプレーに参加者一丸 学年を超える笑顔あふれる 第34回体育祭

第34回体育祭が5月13日(土)、本学陸上競技場で行われた。歯学部学生や衛生学院生、教員など約150人が参加し、チーム対抗方式で玉入れや綱引き、リレーなどの種目を楽しみ、学年の枠を超えて交流した。

開会式で宇田川信之歯学部長は「歯学部、衛生学院の皆さん、きょうはよいコミュニケーションを図れる機会ですので、競技を通して一日楽しく過ごしましょう」とあいさつ。3年連続で体育祭実行委員会委員長を務めた第5学年の伊藤公平君が、一日の流れや注意事項などを説明したあと、全員でラジオ体操で準備運動をして競技に入った。

学生たちは赤、黄、紫、オレンジの色別4チームに分かれて、各種目に取り組んだ。始めは緊張気味だった新



力が入った綱引き(写真部撮影)



チーム対抗リレー(写真部撮影)

入生も、プログラムが進むにつれてリラックスした表情になり、学年の枠を超えて、参加者一丸となって健闘をたたえ合い、笑い合った。

体育祭を締めくくる全員参加の「○×クイズ」では、「大学内を稼働している自動芝刈り機の台数」などの出題があり、東京ディズニーリゾートのチケットや、アップル社製のイヤホン、任天堂のゲーム機などの豪華賞品が当たるとあって、一問ずつ参加者が絞られていくにつれ、一段と盛り上がりを見せていました。

実行委員長の伊藤君は開会前、取材に訪れた地元ケーブルテレビのインタビューを受け、雨のため体育館での開催となった昨年を思い出しながら「今年は広いグラウンドでできる」と喜び、「1年生も先輩も一緒に、今後につながるような人間関係をつくれる体育祭にしたい」と話していました。

Campus Today 第473号（令和5年6月発行）

■朝日大学歯学部■

White Coat Ceremony 2023

歯学部登院式を実施

歯学部5年生の登院式（白衣授与式）が、4月8日に穂積キャンパス6号館6201講義室で厳粛に行われました。この登院式は、5年生が参加型臨床実習を始めるにあたり、その第一歩を踏み出す節目の行事として、毎年実施されています。

登院式冒頭の田村副学長からの「登院の許可」及び式辞、玉置歯学部長からの激励に続き、登壇した5名の学生代表に、白衣と「Student Dentist認定証」が、田村副学長、玉置歯学部長、藤原医科歯科医療センター長、永山教務学生委員長及び河野臨床実習センター長より授与されました。



田村副学長による登院許可と式辞

医療人としての決意表明

全学生が気持ち新たに白衣を身に纏う中、学生代表の高山由衣さんから「臨床実習を開始するにあたり、臨床実習生として社会的責任を常に自覚し、積極的に臨床実習に参加していく」旨の宣誓が行われ、いよいよスター



高山由衣さんの決意表明

トする参加型臨床実習への素晴らしい門出となりました。

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第146号

（令和5年7月発行）

歯学部交流校シエナ大学と 学術交流協定を更新！

15年以上続くシエナ大学との国際交流

3月28日、本大学歯学部の交流校で、2008年から学生の相互派遣を行っているイタリアのシエナ大学より、マルコ・フェラーリ歯学部長（補綴学及び歯科材料学主任教授）が朝日大学法人本部（東京）を訪問し、宮田理事長、大友学長及び明海大学安井学長と懇談しました。



署名する宮田淳理事長



署名するシエナ大学
マルコ・フェラーリ歯学部長



明海大学も交えた3大学で学術交流協定を更新

これまでの3大学交流を評価し、今後の展開について議論した後、学術交流協定を更新するため、協定書に署名をして取り交わしました。

なお、このコロナ禍のなかでも、本大学は昨年12月にシエナ大学より学生2名、教員1名を受け入れ、そして今年3月3日から10日まで、本大学歯学部5年生の2名が、明海大学歯学部と合同で、シエナ大学歯学部で研修を行っています。

今後も朝日大学は、建学の精神に立脚して大学の国際化を推進していきます。

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第146号
(令和5年7月発行)

テキサス大学、 カリフォルニア大学との交流

3月12日から15日まで、本大学との文化学術交流協定校であるテキサス大学サンアントニオ校（アメリカ）から教員2名と学生10名を、また、3月24日から4月1日まで、同カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）から教員2名と学生10名を、短期研修学生としてそれぞれ受け入れました。

両大学との交流は今年度で共に25回を数えるまでとなり、今後も両大学との友好・交流をより一層発展させていきます。



テキサス大学との交流



カリフォルニア大学との交流

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第146号
(令和5年7月発行)

歯学部課外セミナーを開催！

補完的、発展的なカリキュラム外の学習機会を提供

歯学部歯科医学教育推進センター主催で、2月7日～3月10日の期間に、5講座の「2022年度歯学部課外セミナー」が開催されました。

本課外セミナーは、カリキュラムの教育内容を基盤として、本大学歯学部学生の知識や技能の更なる向上を図ることを目的に、各分野にセミナー企画募集を行い、実現したものです。

学内外で実際に体験することで理解が深まった、普段なかなか話すことができない学年縦断的な交流や親睦を深めることができたなど受講者に好評で、非常に有意義なセミナーとなりました。



歯科用実体顕微鏡観察



マネキンを用いた全身麻酔導入実習



セミナー修了証の受領

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第146号
(令和5年7月発行)

■愛知学院大学歯学部■

令和4年度 第57回歯学部学位記授与式を挙行いたしました

令和4年度 第57回歯学部学位記授与式を挙行いたしました。

3月3日(金)楠元キャンパス110周年記念講堂で「令和4年度 歯学部学位記授与式」を挙行し、卒業生へ引田弘道学長から学位記が授与されました。

式を終えた卒業生は、恩師に見送られ、晴れやかな表情で会場を後にしました。



愛知学院大学歯学部ホームページ（令和5年3月掲載）

田中貴信名誉教授が 春の叙勲において瑞宝中綬章を受章

令和5年4月29日付で発表された春の叙勲において、本学の田中貴信名誉教授（元歯学部有床義歯学講座教授）が瑞宝中綬章（教育研究功労）を受章されました。

田中名誉教授は歯学部長、歯学研究科長、歯学部附属病院長を歴任し、本学の歯学教育に尽力されました。永年にわたる教育・研究の功績に敬意を表します。

愛知学院大学ホームページ（令和5年5月掲載）

歯学・薬学1年生合同IPE (IPE: Interprofessional Education 多職種連携教育)が開催されました

2023（令和5）年6月9日(金)午後、本学の特色である医療系学部の集まる楠元キャンパスにおいて、歯学部1年生（119名）と薬学部1年生（152名）の計271名が一堂に会して多職種連携医療について学ぶ授業が実施されました。

多職種連携医療をイメージし医療関連職として協力し

ながら各自の専門性を發揮することの必要性を認識し、他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見いだすことができるための知識・技能・態度を習得することを目的に、学科混成の小グループ討論と全体発表を行いました。全体発表では教員による審査があり、最優秀グループのメンバーには賞状と記念品が授与されました。実施後のアンケートでは、8割を超える学生から本IPEが有意義であったと回答がありました。また、「他学部の方々と共に考え、議論することで、自身の学部しかいないという環境では考えつかないような意見、アイデアが沢山あり、今までの凝り固まった考え方をやめ、柔軟な発想が身についた。」「チーム医療のように他学部の学生と意見交換をし、患者さんの問題に対して一緒に解決に望む経験ができてよかった。」などの感想が学生から寄せられました。

なお、本学歯学部のIPEは今回の歯学・薬学1年生合同を含め、歯学部3年生・健康科学部健康栄養学科4年生と藤田医科大学、名城大学薬学部、日本福祉大学合同、歯学部5年生・薬学部5年生・短期大学部歯科衛生学科3年生・歯科技工専門学校合同の3つがあります。入学時から卒業までの学生の学習段階に合わせたプログラムになっています。来年度は健康科学部健康栄養学科1、2年生と短期大学部歯科衛生学科1年生が加わり、さらに充実したIPEプログラムとなります。



愛知学院大学歯学部ホームページ（令和5年7月掲載）

■ 大阪歯科大学 ■

三条市立大学と 〈歯科医療製薬品の研究開発に係る 包括連携協定〉に調印しました

公立大学法人三条市立大学と学校法人大阪歯科大学は「歯科医療関連技術の研究開発及び実用化に係る包括連携に関する協定」を締結し、2月17日、楠葉キャンパスで調印式を行いました。

この協定は、両校が相互の資源の活用を図りながら、歯科医療関連技術の研究開発・実用化に係る連携を推進し、研究開発の発展に寄与するのが目的。2021年11月に中央歯学研究所を改組して誕生した「大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構（TRIMI）」が主体となって、他のアカデミアと提携するのは今回が初めて。

調印式には、三条市立大学からアハメド シャハリアル理事長・学長、島田哲雄学部長、平野利明ストラテジーオフィサーが、本学からは川添堯彬理事長・学長、馬場俊輔 TRIMI 機構長、谷城博幸 TRIMI 事業化研究推進センター教授らが出席しました。

この中で、川添理事長・学長は、研究が盛んな土地柄の新潟に設立された三条市立大学が、本学と同じ“Innovation”という方向を目指していることを力強く嬉しく思うと述べ、両校の連携によって「イノベイティブな研究、商品、事業が生み出されることを大いに期待している。本協定は、歯科医療に資するためとしているが、これに限らず、医療全般にわたって連携し素晴らしいものを世に問いたい。日本だけでなく世界にも通用するような事業を展開できれば」と挨拶しました。

シャハリアル理事長・学長は、TRIMIと同時に開学した三条市立大学について、Innovationにフォーカスしたものづくり系の人材を育成し、その過程において様々な技術開発を行うことで世の中を豊かにするのが目的であると紹介。「他大学との連携という点で、大阪歯科大学は（本学にとって）第一号。本学の目的を果たしていくうえで非常に有意義な連携と思っています」と話されました。

今回の連携事項は次のとおり。

1. 歯科医療薬品（医薬品、医療機器及び再生医療等製品）及び再生医療等製品）及び歯科医療関連製品の研究開発（共同研究を含む）に係る活動
2. 研究開発に係る教職員、研究員、学生の交流
3. 研究開発及び実用化に係る地域企業との産学連携に關すること



左：三条市立大学アハメド シャハリアル理事長・学長
右：大阪歯科大学川添 堯彬理事長・学長



前列左から
三条市立大学アハメド シャハリアル理事長・学長、
大阪歯科大学川添堯彬理事長・学長
後列左から
三条市立大学 島田哲雄学部長、平野利明ストラテジーオフィサー、
馬場俊輔 TRIMI 機構長、谷城博幸 TRIMI 事業化研究推進センター教授
大阪歯科大学ホームページ（令和5年2月掲載）

大阪マラソンのランナーを守る 医療活動に歯学部3年生が 参加しました

2月26日、ランナー3万人が参加した大阪マラソン2023に、歯学部3年の小林周平さんがメディカルスタッフとしてボランティア参加し、ランナーの安全・安心に一役買いました。

自身も10kmのランニングを日課とする小林さんが、今回スタッフとして参加したのは、将来医療従事者になる前に、人の役に立つ—いわゆる「公益」を体感できるいい機会と思ったから。附属病院で佐久間泰司教授による米国心臓協会AHAの認定救急講習を受講し、知識と技術を確認したうえで、本番に臨みました。

当日はコース26.5km地点の500mの範囲を担当。ランナーに緊急事態が発生した際に、救急医が到着するまで一次救命処置を実施して救急医に円滑に引き継ぐこと、軽症患者は車いすで救護所まで運ぶことが業務です。

小林さんはAED（自動体外式除細動器）隊のリーダーとして救命機材を携行して巡回。体調が悪くなる方もちらほら出るなか、歩けなくなつたランナーを車いすで1~2km搬送するなどしました。

自分の頭で考え、臨機応変の対応が求められる今回の活動について「大学で行われている実習が有用性を發揮したと思う」と振り返った小林さん。「大変でしたが、やりがいのある行事でした」と感想を話してくれました。

この活動は、歯学部アドミッション・ポリシーの「医療人として社会に奉仕し貢献する使命感と気概を持つ」人材育成に合致するものです。

大阪歯科大学は今後とも広く社会に奉仕する人材を積極的に育成してゆきます。



大阪歯科大学ホームページ（令和5年2月掲載）

SCRP日本大会“準優勝”的表彰式を行いました

全国の歯学部学生が研究成果やプレゼンテーション能力を競う令和4年度の「スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本代表選抜大会」（主催：公益社団法人日本歯科医師会）において、大阪歯科大学歯学部5年の木畠佑基さんが準優勝に輝き、11月15日、表彰楯授与式を天満橋キャンパスで行いました。コロナ禍のため昨年同様ウェブ開催となった今大会には、前回と同数の21大学が参加。研究発表抄



表彰楯を手にする歯学部5年の木畠 佑基さん

録・発表スライド・発表ビデオによる一次審査通過者6人が8月26日、英語でのオンライン発表・質疑応答による二次審査に臨み、30日に同会ホームページ上で最終結果が公表されました。

この大会（1995年から開催）での本学の準優勝受賞は昨年に統いて2年連続、上位入賞は3年連続7回目。

「分子動力学法を利用して脂質二重膜上で成長するハイドロキシアパタイトナノ結晶を制御する」。この受賞研究の中で、木畠さんは、医療への応用的価値は高いものの、表面状態を制御して製造する技術は発展途上にあるハイドロキシアパタイトのナノサイズ結晶（nano-HAp）に着目。分子動力学法というコンピュータシミュレーションによって、脂質分子DPPCの二重膜上に nano-HAp の a面と c面を吸着させ、その吸着性の違いを原子レベルで解析しました。その結果、 nano-HAp の脂質二重膜上での成長を制御するための条件を明らかにしたのです。

歯学と物理学の融合。この独創的な研究は、木畠さんの確たる思いから生まれました。兵庫県立大学理学部を卒業後、「開業医の父を手伝えたら」という気持ちで本学に入学した木畠さん。「歯学部でも何か物理が注目を集めることはないかと思っていました」

3年次の授業科目“研究チャレンジ”では、迷わず物理学教室の扉を叩きますが、佐藤衆一助教（この研究のファカルティー・アドバイザー）の最初の返事は「研究テーマを用意していないので、ほかの先生のところへ行ってください」。これにめげず木畠さんは再度、同教室を訪問。木畠さんの熱意が佐藤先生を動かし、辻林徹教授も加わり、3人でテーマの設定から取り組みました。

“研究チャレンジ”は第3学年の前期で終了ですが、木畠さんは「何等かの成果を出して終わりたい」と5年生まで研究を継続。SCRP準優勝という形で木畠さんの努力が結実しました。

式では、川添堯彬理事長・学長が木畠さんに表彰楯を贈呈し、日本歯科医師会長のお祝いビデオメッセージが上映されました。川添理事長・学長は木畠さんの健闘を

讚えるとともに、「物理学教室に研究指導の協力を得て上位入賞したことの大いに意義あること」と述べ、関係者を労いました。

今回の結果について、「惜しかったなあ」とは佐藤先生の弁。「木畑君の本番の発表自体は渾身の出来だったので、ちょっと期待している部分もあって……」。これを聞いた木畑さんは「それだけ期待してくださっていて非常に嬉しく思います。メジャーな内容じゃなかった分、評価がどうなるかなと思っていました」。師弟二人の異なる感想も微笑ましい、表彰式でのひとこまでした。

大阪歯科大学ホームページ（令和5年3月掲載）

■福岡歯科大学■

口腔医学研究センターシンポジウムを開催

2022年12月9日、福岡歯科大学において「口腔医学研究センターシンポジウム 2022～センターでの再生医学研究～」を開催しました。「常態系」、「病態系」、「再生系」、「臨床歯学系」、「医学系」の各プラットフォームに所属する教員からそれぞれの研究内容について講演があり、最後には口腔医学研究センターに所属する大野純教授（再生系プラットフォームリーダー（当時））より「センターでの再生医学研究」と題した講演が行われました。参加者は各研究について興味深い様子で聞き入っており、質疑応答では活発に意見が交わされました。



シンポジウムの様子

福岡学園広報誌 Vol.31 No.1 (第117号)
(令和5年1月発行)

口腔医療センターが移転

福岡歯科大学医科歯科総合病院のサテライトセンターとして、博多駅前に2011年12月に開院した福岡歯科大学口腔医療センターが、入居ビルの老朽化に伴い、2023年2月末で博多駅前での診療を終了し、3月末に医科歯

科総合病院に移転しました。口腔医療センターは、福岡歯科大学の附属施設として最新の技術と設備を兼ね備えた高度な医療を提供し、近隣歯科医院と連携することで地域医療に貢献するとともに、各種講座の開催を通じて地域の歯科医療従事者の生涯学習を行っていく拠点としての役割を担ってきました。また、福岡歯科大学の広告塔として知名度アップに貢献しました。

4月からスタッフは医科歯科総合病院の歯科専門診療科の一員として診療等に従事しており、これまで通院いただいている患者さんも福岡市営地下鉄七隈線が博多駅まで延伸したこともあり、医科歯科総合病院へご案内し、診療を継続しています。



口腔医療センター

福岡学園広報誌 Vol.31 No.2 (第118号)
(令和5年5月発行)

医科歯科総合病院に 呼吸器・循環器内科を開設

福岡歯科大学医科歯科総合病院では、医科と歯科の総合医療センターとして地域医療に貢献することを目指しております、さらなる高度医療を提供するため、新たに呼吸器・循環器内科を開設しました。呼吸器・循環器内科では、各分野の専門医が呼吸器疾患および循環器疾患の診断と治療を行います。



医科歯科総合病院

福岡学園広報誌 Vol.31 No.2 (第118号)
(令和5年5月発行)

学生研究支援プログラム リサーチ・スチューデントが決定

令和5年度の福岡歯科大学研究支援プログラムにおけるリサーチ・スチューデントが決定しました。

この制度は、普段の講義・実習の先にある「研究」に強い関心をもっている学生を支援するもので、リサーチ・スチューデントが行う研究活動には、研究指導を行う分野に対して1件あたり20万円を上限として支援金が交付され、充実した研究活動を行うことができます。

今年度は、6名の学生がリサーチ・スチューデントに採用され、研究課題に主体的に取り組み、物事の本質を見極める能力を磨いていきます。



採用されたリサーチ・スチューデント

福岡学園広報誌 Vol.31 No.3 (第119号)

(令和5年7月発行)

協会役員・部会・委員会名簿

一般社団法人 日本私立歯科大学協会役員名簿

役職名	氏名	所属大学および役職名
会長	羽村 章	日本歯科大学生命歯学部特任教授
副会長	大友 克之	朝日大学 学長
副会長	藤井 一維	日本歯科大学 学長
副会長	一戸 達也	東京歯科大学 学長
専務理事	櫻井 孝	神奈川歯科大学 学長
常務理事	高橋 裕	福岡歯科大学 学長
常務理事	宇田川 信之	松本歯科大学 歯学部長
常務理事	福本 雅彦	日本大学 松戸歯学部長
理事	三浦 廣行	岩手医科大学副学長・歯学部長
理事	川添 基彬	大阪歯科大学 理事長・学長
理事	本田 和也	日本大学 歯学部長
理事	大久保 力廣	鶴見大学 歯学部長
理事	古市 保志	北海道医療大学 歯学部長
理事	宮田 淳	明海大学 理事長
理事	本田 雅規	愛知学院大学 歯学部長
理事	馬場 一美	昭和大学 歯学部長
理事	清浦 有祐	奥羽大学 学長
監事	牧村 正治	日本大学 名誉教授
監事	菱田 健治	朝日大学 監事

(R5.8.31現在)

教育・研究部会

部会長：宇田川 信之
日本私立歯科大学協会常務理事
松本歯科大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
岸光男	岩手医科大学歯学部教務委員長
金秀樹	奥羽大学歯学部学生部長
坂英樹	明海大学歯学部教務部長
山本仁	東京歯科大学副学長
馬場一美	昭和大学歯学部長
林誠	日本大学歯学部学務担当
金田隆	日本大学松戸歯学部学務担当
菊池憲一郎	日本歯科大学生命歯学部長
藤井一雄	日本歯科大学学長
榎木恵一	神奈川歯科大学副学長
山越康雄	鶴見大学歯学部教務・学生部長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
玉置幸道	朝日大学歯学部長
本田雅規	愛知学院大学歯学部長
田中昭男	大阪歯科大学常務理事・副学長・歯学部長
稲井哲一郎	福岡歯科大学学生部長

(R5.8.31現在)

病院部会

部会長：高橋 裕
日本私立歯科大学協会常務理事
福岡歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
舞田健夫	北海道医療大学病院副病院長
佐藤和朗	岩手医科大学附属内丸メイカルセンター歯科医療センター長
大野敬	奥羽大学歯学部附属病院長
横瀬敏志	明海大学歯学部病院長
山下秀一郎	東京歯科大学水道橋病院長
横田宏太郎	昭和大学歯科病院長
飯沼利光	日本大学歯学部付属歯科病院長
平山聰司	日本大学松戸歯学部付属病院長
内川喜盛	日本歯科大学附属病院長
戸谷収二	日本歯科大学新潟病院長
井野智	神奈川歯科大学附属病院長
小川匠	鶴見大学歯学部附属病院長
樋口大輔	松本歯科大学病院長
藤原周	朝日大学医科歯科医療センター長
三谷章雄	愛知学院大学歯学部附属病院長
中嶋正博	大阪歯科大学附属病院長・理事
坂上竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R5.8.31現在)

経営部会

部会長：大友 克之
日本私立歯科大学協会副会长
朝日大学学長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
山本和博	岩手医科大学事務局長
車田文雄	奥羽大学事務局長
中山浩之	明海大学事務局長
加藤靖明	東京歯科大学千葉歯科医療センター参与
倉口秀美	昭和大学学事部長
齊藤政之	日本大学歯学部事務局長
谷龍樹	日本大学松戸歯学部事務局長
谷村龍三	日本歯科大学経理部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
菅原光則	神奈川歯科大学法人事務局長
藤澤文有	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
田中聰	朝日大学事務局長
日比茂久	愛知学院大学歯学部次長
下村錢三郎	大阪歯科大学常務理事
石橋慶憲	福岡歯科大学事務局長

(R5.8.31現在)

広報委員会

委員長：福本 雅彦
日本私立歯科大学協会常務理事
日本大学松戸歯学部長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
齊藤 旭	岩手医科大学歯学部教務課長
古川幸治	奥羽大学事務長
高山裕子	明海大学歯学部庶務課長
橋本貞充	東京歯科大学広報・公開講座部長
吉岡由貴	昭和大学総務部総務課係員
山崎和彥	日本大学歯学部庶務課長
勝俣剛勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
北見公一	日本歯科大学生命歯学部用度営繕部長
本宮由比子	日本歯科大学新潟生命歯学部事務部長
櫻井一義	神奈川歯科大学総務部総務課長
平野司	鶴見大学総務部総務課長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
纈纈力	朝日大学入試広報部入試広報課長
真新薰	愛知学院大学歯学部事務長
松村誠一	大阪歯科大学管理部長
都築尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長

(R5.8.31現在)

受験生確保対策委員会

委員長：福本 雅彦
日本私立歯科大学協会常務理事
日本大学松戸歯学部長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
渡邊義典	岩手医科大学入試・キャリア支援課長
谷代尚人	奥羽大学学事部長
伊藤敦	明海大学歯学部事務部長
船山雅史	東京歯科大学教務課長
井上信之	昭和大学入学支援課長
中澤謙司	日本大学歯学部教務課長
村山賢是	日本大学松戸歯学部教務課長
中世古大介	日本歯科大学東京短期大学事務長
五十嵐謙介	日本歯科大学新潟生命歯学部教務部・学生部副部長
小牧基浩	神奈川歯科大学教授
西村勇気	鶴見大学入試センター事務部入試課長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
真新薰	愛知学院大学歯学部事務長
野崎中成	大阪歯科大学アドミッションセンター長
稻井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R5.8.31現在)

研修委員会

委員長：宇田川 信之
日本私立歯科大学協会常務理事
松本歯科大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
齊藤 旭	岩手医科大学歯学部教務課長
谷代尚人	奥羽大学学事部長
伊藤敦	明海大学歯学部事務部長
片倉朗	東京歯科大学副学長・千葉歯科医療センター長・法人主事
磯飛雄一	昭和大学人事課長
佐々木孝全	日本大学歯学部事務長
勝俣剛勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
北見公一	日本歯科大学生命歯学部用度営繕部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
藤原剛	神奈川歯科大学総務部人事課長
藤澤文有	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
高嶋基則	愛知学院大学歯学部事務長
児玉孝	大阪歯科大学法人事務局長
古村南夫	福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長

(R5.8.31現在)

歯科医師臨床研修の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会副会長
東京歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
舞田 健夫	北海道医療大学病院副病院長
佐藤 健一	岩手医科大学歯科医師臨床研修センター長
山森 徹雄	奥羽大学歯学部教授
横瀬 敏志	明海大学歯学部病院長
平田 創一郎	東京歯科大学臨床研修委員長
長谷川 篤司	昭和大学歯学部教授
武市 収	日本大学歯学部卒後教育担当
野本 たかと	日本大学松戸歯学部卒後教育担当
小川 智久	日本歯科大学生命歯学部臨床研修管理委員会プログラム責任者部会長
二宮 一智	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床研修指導歯科医長
大橋 桂	神奈川歯科大学附属病院総医局長・研修管理委員長
山口 博康	鶴見大学歯学部学内教授
宇田川 信之	松本歯科大学歯学部長
藤原 周	朝日大学医科歯科医療センター長
小島 規永	愛知学院大学歯学部講師
百田 義弘	大阪歯科大学学生部長
坂上 竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R5.8.31現在)

診療参加型臨床実習の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会副会長
東京歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長澤 敏行	北海道医療大学歯学部教授
三浦 廣行	岩手医科大学副学長・歯学部長
鈴木 史彦	奥羽大学歯学部教授
横瀬 敏志	明海大学歯学部病院長
村松 敬	東京歯科大学臨床教育委員長
長谷川 篤司	昭和大学歯学部教授
飯沼 利光	日本大学歯学部付属歯科病院長
内田 貴之	日本大学松戸歯学部付属病院副病院長
内川 喜盛	日本歯科大学附属病院長
海老原 隆	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床実習教育委員会副委員長
山口 徹太郎	神奈川歯科大学附属病院副病院長・教授
山本 雄嗣	鶴見大学歯学部教授
亀山 敦史	松本歯科大学教授
河野 哲	朝日大学歯学部臨床実習センター長
木本 統	愛知学院大学歯学部教務委員長
山本 一世	大阪歯科大学教務部長・理事
坂上 竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R5.8.31現在)

附属病院感染対策協議会

議長：高橋 裕
日本私立歯科大学協会常務理事
福岡歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
永易 裕樹	北海道医療大学歯学部教授
八重柏 隆	岩手医科大学歯学部教授
小嶋 忠之	奥羽大学歯学部講師
星野 優範	明海大学歯学部医療安全執行部長
松坂 賢一	東京歯科大学水道橋病院臨床検査部長
木庭 新治	昭和大学歯学部教授
米原 啓之	日本大学歯学部学部次長
山口 秀紀	日本大学松戸歯学部付属病院副病院長
石垣 佳希	日本歯科大学生命歯学部教授
水谷 太尊	日本歯科大学新潟生命歯学部准教授
沢井 奈津子	神奈川歯科大学准教授
長谷川 雅子	鶴見大学歯学部講師
栗原 祐史	松本歯科大学教授
安田 順一	朝日大学歯学部准教授
宮地 斎	愛知学院大学歯学部准教授
松本 和浩	大阪歯科大学講師
橋本 憲一郎	福岡歯科大学准教授

(R5.8.31現在)

賛助会員企業

紹介コンナー



株式会社八甕（やはら）

私達は歯科医療を総合的にサポートし続けます！

昭和3年の創業以来、おかげさまで95周年を迎えました。

歯科医院開業のお手伝いから医療機器に関する情報伝達やメインテナンスを責任を持ち行う「八甕」。歯科医院に機能的で最適な空間を提案する「原・吉岡設計事務所」。ソフトウェア開発で歯科医療をパックアップする「バンテック」。この3つがひとつになり、歯科医療の環境を総合的にプロデュースしている企業が八甕グループです。

培ってきた伝統と信頼、そこに先進性や開発・想像力を加え、ハードからソフトまで全てを集約し、歯科医療のあらゆるニーズに迅速にお応えしています。

歯科医療の総合商社と建築設計事務所とソフトウェア開発、これらの複合的な連携を持つグループカンパニーである八甕グループは、人々の健康を願い、歯科医療の未来を支え続けることをお約束します。

事業内容

- ・歯科用器械、材料、薬品、貴金属、ソフトウェア、研究図書の販売
- ・歯科医院開業相談及びリサーチ
- ・医療機関を主とする建築設計監理、内装リフォーム相談
- ・医療・保健衛生に関するシステムの開発
- ・営業所：埼玉県春日部市、熊谷市、神奈川県大和市、千葉県成田市

所在地

〒 338-0013

埼玉県さいたま市中央区鈴谷 6-4-5

TEL 048-855-9911

FAX 048-855-9918

<http://www.yahara.co.jp>



代表取締役社長

原 良祐

株式会社松風

松風は、おかげさまで一昨年に創業100周年を迎えることができました。

振り返ると弊社は、創業者 三代松風嘉定の「日本人は日本人の造った歯で米を食わねばならぬ」という高い志からはじまり、高級陶歯やダイヤモンド研削材など数々の日本初、世界初の製品を開発上市して参りました。現在では欧州、北米、南米、アジアなど世界各国に拠点を設け、130カ国以上に製品を提供するに至っています。

今日ではデジタル分野にも注力しており、「松風 S-WAVE CAD/CAM システム」の充実化や歯科切削加工用レジン材料「松風ブロック PEEK」の大臼歯全般への保険適用など、時代のニーズに沿った開発を進めて参りました。

松風はこれからも「創造的な企業活動を通じて世界の歯科医療に貢献する」という経営理念のもと、東証プライム上場企業としての社会的責任を果たし、歯科医療への貢献と持続可能な社会の実現を目指して参ります。今後とも皆様の一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

事業内容

- 歯科材料及び歯科用機器の製造・販売



代表取締役社長

高見 哲夫

所在地

〒 605-0983

京都府京都市東山区福稻上高松町 11

TEL 075-561-1112 (代)

FAX 075-561-1747

<https://www.shofu.co.jp>

一般社団法人

日本私立歯科大学協会加盟名簿

■加盟大学および学部■

北海道医療大学歯学部
岩手医科大学歯学部
奥羽大学歯学部
明海大学歯学部
東京歯科大学
昭和大学歯学部
日本大学歯学部
日本大学松戸歯学部
日本歯科大学生命歯学部
日本歯科大学新潟生命歯学部
神奈川歯科大学
鶴見大学歯学部
松本歯科大学
朝日大学歯学部
愛知学院大学歯学部
大阪歯科大学
福岡歯科大学

■賛助会員■

(株)シラネ 沖歯科要材(株)
(株)ヨシダ (株)J.M.O r t h o
(株)デンツプライシロナ (株)トクヤマデンタル
(株)長田電機工業 (株)ミクロン
(株)東京技研 (株)モリタ東京製作所
(株)ジ一シ一 (株)Y D M
(株)吉田精工 (株)サンメデイカル(株)
(株)八堺 (株)田中歯科器械店
(株)ササキ (株)医歯薬出版(株)
(株)モリタ (株)ブイ・エス・シー
(株)ニッシン (株)E P A R K
(株)松風 (株)メディア(株)
(株)モリタ製作所
(株)日本歯科薬品(株)
(株)玉井歯科商店
(株)A D I . G
石福金属興業(株)

◇編集後記◇

協会広報第86号をお届けします。

今号の巻頭言は、朝日大学の玉置幸道歯学部長からいただきました。

この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今後とも、協会広報の内容の充実に努めてまいりたいと思いますので、ご意見・ご要望等がございましたら、協会事務局までお寄せください。お願いいたします。

広報委員長（協会常務理事）

福本 雅彦

令和5年6月16日付けで、「広報委員長」に福本常務理事が就任いたしました。

—協会事務局—

令和5年9月30日発行

日本私立歯科大学協会広報 第86号

発行人 一般社団法人 日本私立歯科大学協会 羽村 章

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-9 私学会館別館第二ビル2階

電話 03-3265-9068 FAX 03-3265-9069

協会のホームページアドレス <https://www.shikadaikyo.or.jp>

制作協力：(株)日本出版サービス

「題字」及び「シンボルマーク」について

【題字】初代会長 白数美輝雄先生の揮毫

【シンボルマーク】協会の英語表記「Japanese Association of Private Dental schools」の頭文字を図案化(初代専務理事 宮田侑先生による)